

- ☆小林会長年頭所感
- ☆2012年度常設専門委員会役員
- ☆2012年度1月～6月の主な行動日程/短時間勤務共同宣言
- ☆青年委員会定期総会報告/女性委員会定期総会報告
- ☆埼玉シニア連合定期総会報告/狭山茶購入支援
- ☆ネット21カード受付開始/ピークカットアクション21～冬の陣～
- ☆第83回メーデーポスター図案
- ☆民主党マニフェストグランプリ/もうすぐ選挙/1月の行動日程
- ☆あけぼのビル

～小林直哉会長 年頭所感～

GUH (組合員総幸福度Gross・Union・Happiness) を求めて

新年明けましておめでとうございます。新しい年が組合員とご家族にとって健康で幸多い一年となりますようお祈り申し上げます。

世界的な経済不況とこれに伴う雇用不安、さらには多発する自然災害などにより日本は閉塞感に覆われています。内閣府の生活満足度調査では、「満足している」との回答は、全体の1割程度と低水準で推移しています。

一方、昨年、国王夫妻が来日したブータンでは、GNH（国民総幸福度）を国家の目標にすえ、経済的な豊かさのみを追い求めるのではなく、個人が幸せを感じることが出来る環境づくりを目指しています。その結果、国民の9割以上が「幸せ」と答えているそうです。GNP（国民総生産）ばかりを追い求めてきた日本人にとって、ある意味、爽やかなショックを受けました。

冒頭に理想的な話をしましたが、残念ながら私たちの現実に触れなければなりません。

日本経済は、08年9月のリーマンショックにより大打撃を受け、業種によっては操業が半減以下のところもありました。その後、政府の景気刺激策などもあり、緩やかな回復基調に乗りかけました。その矢先の3.11大震災で東北地方を中心に多くの企業が地震と津波の被害を受けました。さらに福島第一原子力発電所の事故により、計画停電を含む電力供給不足という未経験の事態が起きました。被災地では、多くの人が職を失い、今なお仮設住宅生活を余儀なくされています。

こうした厳しい状況に加えて、長期化するデフレ、欧州危機を受けた円レートの高騰など、現下の日本経済は、復活か転落かの崖っぷちに立たされています。これらの課題を克服しなければならないのは民主党政権は、国内外の急激な変化に対応しきれず、国民の期待に十分応えているとは言えません。今年こそ、政権交代の原点を再認識して、生活の安定と安心につながる着実な政策を実現しなければなりません。

さて、2012年度は地方連合が担う下記5項目を重要課題として取り組んでいきたいと思えます。一点目は、組織拡大です。20万連合埼玉を目指し、産別未加盟組合への呼びかけや電話相談を通じた未組織労働者の組織化に注力したいと思えます。

二点目は、中小、地場組合への支援です。連合埼玉800組合の多くは中小組合です。格差拡大に歯止めをかける活動に取り組めます。

三点目は、政策制度実現活動です。安心して働き続けられる社会に向け、埼玉県や市町村に働きかけます。

四点目は、地域における社会参加運動です。NPOなどと連携して、助け合いや平和・文化活動などに取り組みます。

五点目は、政治活動です。政治に無関心でも無関係ではいけないことを組合員に訴えていきます。

そして、これら5項目を進めていくには各構成組織・加盟組織リーダーの教育が不可欠です。人材育成としての組合力伝承をめぐし、組合役員教育プログラムの充実に努めます。

以上、私たち連合埼玉を取り巻く環境は、年を新たにすることに難しさも増しているように思えます。しかし、私たちは現実をしっかり見据えて取り組まなければなりません。そうすれば必ずや組合員にとって明るい将来があることを確信しています。組合員の皆さんに、GUH（組合員総幸福度：Gross Union Happiness）で「幸せ」と答えてもらえるように努力したいと思えます。

本年が皆様にとって良き一年となりますよう、ご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



連合埼玉 小林直哉会長



2012年度「常設専門委員会の担当役員」



◎=正 ○=副

委員会	役割	委員	事務局
広報委員会 委員長 山下副会長 (自治労)	・広報活動の充実 ・情報誌の発行 ・連合埼玉HPの充実	関口 執行委員 (JP労組)	◎ 山本 副事務局長
		田口 執行委員 (情報労連)	○ 鶴谷 副事務局長
		萩元 執行委員 (フード連合)	
		倉持 執行委員 (埼玉教組)	
		新井 執行委員 (全水道)	
		荻野 執行委員 (建設埼玉)	
		小林 執行委員 (青年委員会)	
組織委員会 委員長 金井副会長 (電機連合)	・「なんでも労働相談ダイヤル」の充実 ・組織拡大の取組み ・地域社会と連携した地域協議会活動の取組み	齊藤 執行委員 (UIゼンセン同盟)	◎ 鶴谷 副事務局長
		平尾 執行委員 (電機連合)	○ 増田 副事務局長
		小嶋 執行委員 (JAM埼玉)	
		持田 執行委員 (自治労)	
		横田 執行委員 (県私鉄)	
		井上 執行委員 (JEC連合)	
		萩元 執行委員 (フード連合)	
		鈴木昭二 執行委員 (運輸労連)	
		小川 執行委員 (印刷労連)	
労働政策委員会 委員長 松井副会長 (UIゼンセン同盟)	・安全衛生の取組み ・地域ミニマム運動 ・春闘の取組み ・雇用対策 ・ワーク・ライフ・バランスの取組み	鈴木満 執行委員 (自動車総連)	◎ 山本 副事務局長
		平尾 執行委員 (電機連合)	○ 小穴 副事務局長
		関口 執行委員 (JP労組)	
		山本 執行委員 (電力総連)	
		横田 執行委員 (県私鉄)	
		井上 執行委員 (JEC連合)	
		矢作 執行委員 (埼交運)	
		新井 執行委員 (全水道)	
政策・制度委員会 委員長 関口副会長 (自動車総連)	・政策フォーラム ・政策制度要請	小嶋 執行委員 (JAM埼玉)	佐藤 事務局長
		持田 執行委員 (自治労)	◎ 小穴 副事務局長
		山本 執行委員 (電力総連)	山本 副事務局長
		田口 執行委員 (情報労連)	増田 副事務局長
		矢作 執行委員 (埼交運)	鶴谷 副事務局長
		鈴木昭二 執行委員 (運輸労連)	
		天沼 執行委員 (基幹労連)	
		倉持 執行委員 (埼玉教組)	
		荻野 執行委員 (建設埼玉)	
男女平等参画推進委員会 委員長 小室副会長 (JP労組)	・男女平等参画社会形成に向けた環境の整備・充実 ・「第3次男女平等参画推進行動計画」の実行 ・ワーク・ライフ・バランスの推進	齊藤 執行委員 (UIゼンセン同盟)	◎ 鶴谷 副事務局長
		宮崎 執行委員 (サービス・流通)	○ 増田 副事務局長
		小川 執行委員 (印刷労連)	
		中島 執行委員 (JR総連)	
		高橋 執行委員 (国公総連)	
		横山 執行委員 (女性委員会)	
		上杉 特別執行委員 (電機連合)	
		井上 特別執行委員 (情報労連)	
総務・財政委員会 委員長 依田副会長 (電力総連)	・大会、地方委員会、執行委員会の運営 ・その他総務の実行 ・財政管理	鈴木満 執行委員 (自動車総連)	◎ 佐藤 事務局長
		宮崎 執行委員 (サービス・流通)	○ 小穴 副事務局長
		中島 執行委員 (JR総連)	
		天沼 執行委員 (基幹労連)	
		高橋 執行委員 (国公総連)	

2012年度 1月～6月の主な行動日程

1月
January

11日 新春のつどい

・雪かたしボランティア

2月
February

1～3日 相談ダイヤル
2日 地協議長・事務局長会議
4、12日 パワーアップセミナー
14日 春闘開始宣言
15～21日 春闘“地協第一次行動”

3月
March

6～10日 春闘“地協第二次行動”
7日 ミニマムアピール
19～23日・
26～30日 経営団体・地協商工会要請

4月
April

5～12日 春闘“地協第四次行動”
28日 第83回県中央メーデー
20日～5月1日 地協メーデー開催ゾーン

・災害ボランティア研修会

5月
May

・政策フォーラム
・女性委員会第1回STEP UPセミナー

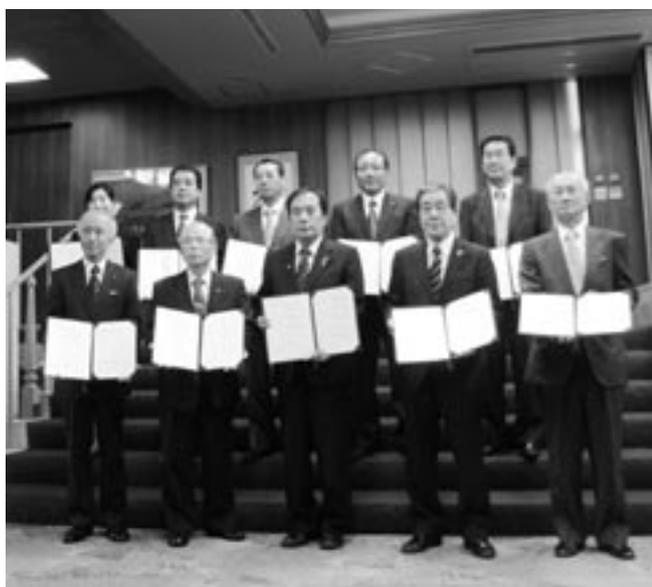
6月
June

12日 メンタルヘルスセミナー
23～25日 平和行動in沖縄

・男女平等月間
・男女平等参画推進セミナー

短時間勤務で共同宣言

～2013年度導入促す～



埼玉県短時間勤務普及に関する署名式

連合埼玉は12月5日、県と埼玉労働局、県内経済団体、労働団体と男女の育児と仕事の両立や女性の就業を支援する「短時間勤務制度」の普及促進、定着を推進することで合意し、共同宣言に署名しました。2013年度中に県内すべての企業が同制度を定着させることを目指しています。

育児・介護休業法の改正に伴い、1日原則6時間の短時間勤務制度の創設や所定外労働の免除などが、今年7月からすべての企業に義務付けられます。

共同宣言は、「短時間勤務制度の導入促進」「多様な短時間勤務制度の創設」「短時間勤務制度の定着促進」「取り組み状況の確認」という4つの項目が明記され、短時間勤務制度について企業経営者への啓発を進め、相談体制を整え、2013年度中に全ての企業での定着を目指すとしており、取り組みが着実に進むよう定期的に意見交換し、状況を確認することも記載されています。

青年の積極的な活動で明るい未来をつくろう

青年委員会第23回定期総会

■2012年度新役員体制

役職	氏名	構成組織名
委員長	小林 孝徳	UIゼンセン同盟
副委員長	酒寄 友宏	情報労連
事務局長	梶原 健太	電機連合
事務局次長	小岩 陸	JAM埼玉
幹事	下入佐隆行	自動車総連
	渋澤 大輔	サービス・流通連合
	椎名 邦充	自治労
	佐々木泰平	JP労組
	沼田 賢洋	電力総連
	甘浦 大	運輸労連
	矢口 昌広	JR総連
	松下 和生	国公総連
	深瀬 匠	化学総連
	久森 政弘	全国ガス
酒井 章貴	建設埼玉	

■退任役員

役職	氏名	構成組織名
委員長	大室 元信	JR総連
副委員長	奥山 義彦	JAM埼玉
幹事	田島 佳昭	自動車総連
	楳本 信明	電力総連
	熊木 将剛	JR総連
	鈴木 正治	化学総連

11月25日(金)、あけぼのビルにおいて“青年委員会第23回定期総会”が開催され、2011年度活動・会計報告、2012年度活動方針案・予算案・役員選出の全議事が満場一致で承認された。

冒頭、大室青年委員長より「3/11に発生した震災により様々な問題が顕在化された。1日も早い復興のために必要なことは何か、何をすべきかを考え活動をしていきたい。また、4月に統一地方選挙が実施され、逆風の中、多くの青年層の組合員が選挙に参加した。今後も私たちが解決できない社会的課題解決に向けては、政治活動は不可欠であり「なぜ労働組合が政治活動に取り組むのか」を理解し、私たち青年層が未来を担っていくのだと自覚して、政治活動に参画することが重要である。みなさんと共に労働者の明るい未来をつくりだして行きたい」と挨拶がされた。

また、今回の役員選出により新委員長に就任した小林委員長より「先輩たちが築き上げた青年委員会のすばらしい伝統を継承しながら、多くの人が参加して構成組織をこえた交流ができる活動をしていきたい」と力強い決意がされ総会を終了した。

総会終了後には、交流懇親会を開催し、日ごろ交流のない構成組織青年層が様々な話題で盛り上がり無事に終了した。



挨拶をする大室委員長



2012年度新役員

「仕事と育児・介護を両立できる社会」の実現を

女性委員会第23回定期総会

12月7日(水)さいたま共済会館において、「女性委員会第23回定期総会」が開催された。

総会の冒頭、横山委員長より「2010年に育児介護休業法が改正され、昔に比べれば十分な制度や仕組みになってきたが、まだまだ現場で働く人の気持ちの中に「壁」が存在する。女性の仕事と育児・介護を両立できるような社会を実現できるよういっそう取り組んでいく」と挨拶がされた。

連合埼玉を代表し小林会長からは「男女共同参画時代と言われて久しいが現実には男女が共同で家事や育児・介護をする環境にはほど遠い。それをどう打ち破っていくかが労働組合に課せられた問題である。女性委員会から様々な情報・意見を受けながら取り組んで行きたい」との挨拶があった。続いて来賓を代表して民主党埼玉県連男女共同参画委員長であり県議会議員の高木まり氏より「皆さんの小さな努力の積み重ねがあってやっとここまで来たのだと実感した。私たちが政治・行政の部分からできる活動に取り組んで行きたい」と挨拶をいただいた。

その後、2011年度活動・決算報告の後、2012年度活動方針である①男女平等社会への実現、②仕事と生活の調和、③あらゆる分野への女性の参画を中心とした具体的活動方針について満場一致で決定した。最後に「働くことを軸とする安心」を実感できる社会の実現に向け活動していく主旨の総会アピールを構成員全員で確認した。



挨拶をする横山委員長



参加者のみなさん

■2012年度新役員体制

役職	氏名	構成組織名
委員長	横山 薫	自治労
副委員長	吉川 和美	JAM埼玉
	井上 尚子	情報労連
事務局長	上杉 裕子	電機連合
事務局次長	伏見美千代	UIゼンセン同盟
幹事	原 千恵	自動車総連
	大川かつよ	サービス・流通連合
	下村 緑	JP労組
	小川 由美	電力総連
	吉田恵美子	国公総連
	朝海 登紀	埼玉教組
	神田 弥生	建設埼玉

■退任役員

役職	氏名	構成組織名
副委員長	成田 良子	サービス・流通連合
幹事	松浦 沙織	JP労組
	田中 保世	電力総連

“組織拡大・充実に向け取り組みを強化”

埼玉シニア連合第15回定期総会

11月24日(木)さいたま市・あけぼのビルで第15回定期総会が開催された。

はじめに生方会長から「国内外の情勢は、自然災害、欧州金融危機、円高など、諸課題が山積し、世界の中の日本のあり方が問われている。東日本大震災では多くの人命が奪われ、哀悼の意を表すとともに、被災者にお見舞いを申し上げる。シニア連合はゴルフ大会、ボウリング大会でチャリティ募金を行い、連合を通じて被災地の方々に届けてきた」とのあいさつがあり、その後、連合埼玉・佐藤事務局長をはじめとする来賓の方々のあいさつを受けた。

続いて2011年度活動経過報告および会計・監査報告が提案され、満場一致で承認された。議事では、第1～5号議案までがそれぞれ提案され、いずれも満場一致で可決・承認された。

活動方針では、①組織強化と拡大に向けた活動、②退職者連合と連携した取り組み、③会員相互の親睦を深める交流行事の開催、などの諸活動方針が提起された。

最後に、退任された中村副会長からあいさつを受けた後に、新役員の自己紹介と生方会長の代表挨拶で総会は終了した。



挨拶をする生方会長



総会の様子

■2012年度新役員体制

役職	氏名	出身組織
会長	生方 文人	電機連合
副会長	澤井 敏夫	JP労組
	村田 明	自動車総連
事務局長	駒込 登	JAM埼玉
事務局次長	小穴真一郎	連合埼玉副事務局長
幹事	飯塚 貴	電力総連
	三角 寛	JR総連
	永野 直次	運輸労連
	松川 正登	国公総連
	竹澤 一枝	情報労連
	小林 真一	基幹労連
	倉田 久男	UIゼンセン同盟
会計監査	野澤 健司	自治労
	長峯 友作	私鉄総連
	植田 千芳	全水道

■退任役員

役職	氏名	出身組織
副会長	中村 正男	UIゼンセン同盟
幹事	岡芹 敏男	自治労

県ブランド品と震災被災者の支援が同時にできます!

～狭山茶購入キャンペーン実施中～

連合埼玉「東日本大震災復興協賛品」
ご購入いただいた商品の本体価格の30%を連合埼玉に寄付し、東日本大震災被災者支援に活かします。

つながるう NIPPON 連合
連合埼玉 狭山茶農業協同組合

福島第一原子力発電所事故の影響により、県ブランド品である『狭山茶』の風評被害が広がっています。いままでの50%まで販売高が減少し、経営不振から倒産するお茶屋さんも出ています。埼玉県は全銘柄の検査を行い、10月中旬に安心宣言を行うなど、狭山茶の販売回復に向けて行動しています。

連合埼玉では、狭山茶農業協同組合と共同し、狭山茶購入キャンペーンを実施しています。これは、販売不振により苦しんでいる狭山茶の生産者・販売者を支援するものです。また、販売金額の30%を東日本大震災被災者支援金として、寄付を頂くことになりました。

現在、製品となったお茶は、販売業者に大きな在庫があります。今年度の茶葉の出荷が終わっているお茶農家は、今のところ影響はありません。しかし、この状況が続くと、お茶農家にまで影響が及び、県内、特に西部地域の農業に深刻な打撃を受けることが懸念されています。このキャンペーンでは、「お茶の購入の下支えをすることで販売額を回復させること、また、「狭山茶が安心であることをアピールし、懸念される影響を払しょくさせることも、目的としています。

皆様に、お茶を買っていただくことで、狭山茶の支援と東日本大震災の被災者の支援が同時にできます。ぜひ、ご協力のほど、お願いします。

キャンペーン期間:2012年3月30日(金)まで
お問い合わせは、各構成組織または連合埼玉まで

ネットワークSAITAMA21運動

2012年度 ネット21カード 受け付け開始



働く者と地域の市民が出会い、互いに理解しあって勤労者の生活と暮らしを共に支えあう共生の地域社会づくりをめざす「ネットワークSAITAMA21運動」に賛同し、ワンコインの募金をいただいた皆さんに、ご協力の証として発行している、さまざまな付属サービスが付いた生活応援カードです。

カードは、Aタイプ(200円の寄付金、ライフサポート倶楽部の特典付)とBタイプ(400円の寄付金)の2種類があります。カード購入で寄せられた寄付金は、「ふれあいコミュニティー・ファンド」に拠出され、勤労者の暮らしと市民活動・NPO活動を応援する事業に使われます。

各カードとも、さまざまな協賛企業の特典が付いていますので、NPO等への寄付を行いながら、お得な生活ができます。また、特にAタイプについては、レジャー関係に強い「ライフサポート倶楽部」がついているため、組合員皆様の福利厚生の一環としても、お使いいただけます。

ぜひ、この機会にご協力いただき、カードの魅力を実感してみてください。

カード申し込み受付期間:2012年1月12日(木)~2月29日(水)

みんなの知恵で、寒い冬を乗り越えよう!

~ピークカットアクション21 冬の陣~

ご家庭・職場でのエコアイデア募集!!

夏に比べれば電力総需要は少ないものの、電力使用のピーク時にはぎりぎりの供給しかないのは冬も同じです。しかしながら、夏場のようながまん節電ではなく、冬場の特徴である「18時以降が、家庭の電力消費のピーク時間」を踏まえ、「冬の節電」は無理なく、楽しく取り組める節電アイデアを募集するとともに、このアイデアを紹介し、取り組みの輪を広げていきます。

募集期間:2011年12月12日 ~ 2012年1月20日

ピークカット
アクション21

節電のススメ 冬のヒント

冬のピークカットは夕方!

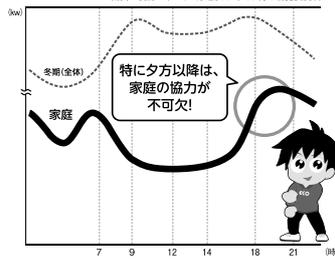
夏と冬では、1日の電力の使われ方に違いがあります。

夏は13:00~16:00頃の午後の時間帯が1日のピークとなる傾向が強いのですが、冬においては、9:00~21:00頃まで一日を通じて使用量が多い状態が続きます。

家庭においては、特に18:00以降のピークカットアクションが求められます。

冬期平日の電気の使用方(イメージ)

出典:資源エネルギー庁 2011年11月1日発表資料



http://www.rengo.org/ 2011 適合エコライフ21

ピークカット
アクション21

節電のススメ 冬のヒント

効率的に暖をとろう!

寒い部屋を暖めるには、多くのエネルギーを必要とします。

特にエアコン・電気ストーブ・電気カーペットなどは電力を使いますので、効率的につかう工夫をする必要があります。

湯たんぽや石油ストーブなど電力を使わない機器をつかったり、重ね着やひざかけをつかうなどの工夫もして、無理なく節電にチャレンジしましょう。

主な暖房機器の定格消費電力

出典:資源エネルギー庁 2011年11月1日発表資料

エアコン	450W (6畳用) 750W~1100W (10~15畳用)
電気カーペット	760~1000W (3畳用)
ファンヒーター	1150W
オイルヒーター	360~1500W
ハロゲンヒーター	1200W
電気ヒーター	800~1000W

広い部屋を温める場合は、ヒーターよりエアコンの方が効果的です。



http://www.rengo.org/ 2011 適合エコライフ21

第83回メーデー・ポスター図案

第83回メーデーのポスター図案を右の方法で募集します。

<入選>

最優秀賞1点(20万円)

優秀賞3点(各10万円)

最優秀作品は第83回メーデーポスター図案に使用。

◎応募作品は返却しません。
著作権はメーデー実行委員会の所有となります。
著作権上の問題が発生する恐れのあるデータを使用しない。
写真も必ずオリジナルのものを使用する。



応募方法

- ① 対象 連合組合員とその家族および退職者
- ② 図案イメージ ①震災からの復興・再生を軸に据えた「雇用と生活の再建」
②「働くことを軸とする安心社会」の意義と、労働組合の役割や使命の再確認
③「すべての働く者の連帯を目指した社会的な運動」の実現に向けて、諸団体やNGO・NPOとの連携強化に基づき、写真やイラスト等を用いたデザイン。
- ③ 用紙 A2サイズ・タテ、画用紙またはケント紙・1人1点
- ④ 締切り 2012年1月20日(金) 必着
- ⑤ 記載事項 用紙の裏側に氏名、自宅住所・電話番号、所属労働組合・電話番号、上部団体名、地方連合会名を記入のこと。記載事項もれは不可。
郵送または宅配便
- ⑥ 送付方法 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11
- ⑦ 送り先 連合連帯活動局気付

第83回メーデー中央実行委員会
TEL 03-5295-0513 rentai@sv.rengo-net.or.jp

民主党 さいたま市議団 マニフェスト大賞グランプリを受賞!



授賞式にて - 神崎功団長(左)、高柳俊哉幹事長(右)

「第6回マニフェスト大賞」(ローカルマニフェスト推進地方議員連盟などの実行委主催、毎日新聞社・早稲田大学マニフェスト研究所共催、共同通信社後援)の受賞式が11月4日に行われ、民主党 さいたま市議団がマニフェスト大賞グランプリを受賞しました。

このマニフェスト大賞は、平成18年より開催されており、今年は「新しい日本をつくろう」を大会テーマに、全部門合計で1,340団体 1,670件の応募の中から、各部門ごとに優秀賞を数団体選定し、その中から大賞を1団体選定します。

民主党 さいたま市議団は、地方議会部門マニフェスト大賞に応募、全国26団体の中から大賞に選ばれました。

今回、2007年に策定したローカルマニフェスト「さいたま・民主党提言2007-15の約束」について、内部と外部有識者の評価委員会が検証を行った取組みと、その提言や市民アンケートを反映させた2011年策定の新マニフェスト「明日(あした)のために-15の約束」の策定について、PDCAサイクルとして評価されました。

詳細は、マニフェスト大賞ホームページ：<http://www.local-manifesto.jp/manifestoaward/>

＝もうすぐ選挙＝

吉川市議会 議員選挙

◆降旗 聡(ふりはた さとし)

41才(無所属・新・連合埼玉推薦初)県私鉄・組織内
告示日：2012年1月22日(日) 投票日：2012年1月29日(日)

上尾市長 選挙

◆武藤 政春(むとう まさはる)

65才(無所属・新・連合埼玉推薦初)
告示日：2012年1月29日(日) 投票日：2012年2月5日(日)

宮代町議会 議員選挙

◆石井 真一(いしい しんいち)

63才(民主党・現1・連合埼玉推薦2回目)
告示日：2012年2月7日(火) 投票日：2012年2月12日(日)

新座市議会 議員選挙

◆柴崎 清(しばさき きよし)

55才(民主党・現1・連合埼玉推薦2回目)情報労連・組織内

◆佐原 範久(さはら のりひさ)

63才(民主党・現1・連合埼玉推薦2回目)
告示日：2012年2月12日(日) 投票日：2012年2月19日(日)

現在予定される1月の日程表です

1月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	日	
2日	月	
3日	火	
4日	水	
5日	木	
6日	金	連合新年交歓会(16:00～・ホテルラングウッド) ①埼玉新聞社2012新年賀詞交換会(17:00～・ノレスホテル大宮) ②自治労「2012年新春旗開き」(18:00～・さいたま共済会館)
7日	土	①北埼玉地域協議会「第18回定期総会」(9:15～・行田市男女平等参画推進センター) ②連合白書学習会(13:30～・総評会館) ③埼玉教組「2012年新春旗開き」(13:30～・さいたま共済会館)
8日	日	青年委員会新旧幹事会(～9日)
9日	月	
10日	火	
11日	水	①第2回四役・執行委員会(ときわ会館) ②新春のつどい(ときわ会館)
12日	木	
13日	金	①建設埼玉「新春の集い」(15:00～・ラフレさいたま) ②電機連合「旗開き」(18:30～・伊香保ホテル木暮) 情報労連「新春の集い」(11:00～・ときわ会館)
14日	土	JP労組「旗開き」(17:00～・東天紅)
15日	日	
16日	月	埼玉県私鉄「2012年団結旗開き」(18:00～・さいたま共済会館)
17日	火	
18日	水	①地域労福協代表者会議(10:00～・ときわ会館) ②東部地域協議会「旗開き」(18:30～・春日部市商工振興センター)
19日	木	
20日	金	①関東ブロック2012女性会議(13:30～21日・ワークピア横浜) ②秩父地域協議会「総会・旗開き」(18:00～・荷車屋会館) ③全水道「旗開き」(18:30～・浦和ロイヤルパインズホテル)
21日	土	川越・西入間地域協議会「旗開き」(東武ホテル)
22日	日	吉川市議会議員選挙告示
23日	月	
24日	火	①川口・戸田・蕨地域協議会「総会」(18:00～・戸田市文化会館) ②熊谷・深谷・寄居地域協議会「旗開き」(18:15～・キングアンバサダーホテル) ③連合タウンミーティング「働くことを軸とする安心社会」に向けて(18:30～・浜松町メルパルクホール) JR総連「旗開き」(18:30～・プリランテ武蔵野)
25日	水	女性委員会第1回幹事会(18:00～・連合埼玉会議室)
26日	木	
27日	金	
28日	土	さいたま市地域協議会「総会・旗開き」(ときわ会館)
29日	日	金属部門連絡会 ①吉川市議会議員選挙投票開票 ②上尾市長選挙告示
30日	月	①埼玉労福協「第12次東南アジア労働福祉視察団」解団式(17:00～・ときわ会館) ②埼玉県生産性本部新春労使懇談会(15:00～・さいたま共済会館)
31日	火	①JAM埼玉「新春の集い」(17:30～・ノレスホテル大宮) ②本庄・児玉都市地域協議会「旗開き」(18:00～・グランドホテル本庄) ③県央地域協議会「総会」(18:15～・東武センターホール上尾)

あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

◆「労働の尊厳」を考える

12月12日、2011年度後期埼玉大学連合寄付講座「働くということと労働組合」の講師として、1時間30分の授業を受け持った。私に与えられたテーマは、「職場・地域の現状とその対応」という分類の「労働組合と地域との関わり」についてである。事務局からは労働組合による就職支援活動、地域と労働組合の関わりやNPO等とのネットワーク、さらに東日本大震災復興支援の取り組みについて実例をあげるよう依頼された。

講義の冒頭、連合埼玉の新中期運動ビジョンに掲げるめざす社会像について説明し、文中の「労働の尊厳」について学生と考えてみた。尊厳とは「とうとくおごそかなこと」「気高く犯しがたいこと」と辞書にはあるが、「労働の尊厳とは」と問われると難しい。

そもそも、私たち人間は、普段、何不自由なく生活していると、「生きていられる」ということに対して無頓着になる傾向にある。例えば、私たちは、健康であるときには「健康であることのありがたさ」を考えることもないが、いざ病気になると、改めて「健康の尊厳」について再認識するものである。健康でいることはあたり前の事実ではなく、そして、健康で生きていられることもあたり前の事実ではない。毎日幸せに暮らしている私たちにとっては、「何らかの緊急事態」がおこらないと、なかなか真剣に考えようとしにくいことである。

「働く」というキーワードで最近の緊急事態をあげてみれば、2008年秋のリーマン・ショックや東日本大震災により職を失った人々がいる。同時に住まいも失い、生活の基盤を失った。このことから「働く」ということは、即ち「生きる」ことであり、逆に述べるならば、「生きる」ということは、「働く」ということでもある。「労働の尊厳」とは、誰もがいつでも働く機会、参加の場を得ることができるという安心感があって、初めて成り立つものではないかと思う。

◆貧困対策は待たなし

2011年7月に生活保護受給者が205万人を超えた。2011年度の生活保護費は支給額予算ベースで3兆4000億円にも上る。生活保護受給者が増大していることは喜ばしいことではないが、205万人という数字だけを捉えるならば、以前は申請時に法に反して受付を拒む、いわゆる水際作戦が横行していたが、そのことが改善され「最後のセーフティーネット」としての機能が発揮されてきたと言える。

しかし、貧困の裾野は広く、相対的貧困率(※)は16%で2040万人が貧困と言われている。厚生労働省は、生活保護基準未満で生活している世帯は597万世帯あり、そのうち資産の条件を勘案して生活保護の受給要件を満たしているのは229万世帯であると試算している。(現在の保護世帯は148万世帯)

生活保護の被保護世帯には、高齢者世帯、母子世帯、傷病者世帯、障害者世帯、その他の世帯に分類されているが、全体の42%が高齢者世帯であり63万世帯。リーマン・ショック以降「その他の世帯」が急増し17%、25万世帯となり、母子世帯と障害者世帯を上まわっている。なぜ、高齢者世帯が生活保護の半数近くを占めているのか。言うまでもなく、高齢者になれば就労の機会は皆無に等しく、健康面や体力面でも自由がきかなくなってくる。だからといって年金では生活ができない。行き着くところは生活保護しか残っていない。

現在、社会保障と税の一体改革の議論が行われているが、年金支給額が減れば高齢者世帯の生活保護受給者が増えるのは当然である。11月20日～23日に行われた行政刷新会議ワーキンググループ「提言型政策仕分け」では、「最低生活の保障」と「自立の助長」を両立させるための支給額はどうすべきか』が論点となったが、いかにして3兆円を超える保護費を抑えるかという議論で、一面的な意見が多かったように感じる。貧困層がなぜ拡大しているのかを正しく認識し、分厚い中間層を取り戻すためにも、経済対策は勿論のこと、雇用や社会保障の問題と一体的に議論を進め、制度をつくり上げることが貧困の解決には必要である。例えば、働きたくても働くことのできない高齢者の保護は生活保護からは切り離して年金問題として考える。一方、その他の世帯に属する現役世代には労働政策として扱い、生活できる賃金が受けられるよう自立支援を強化する。また、生活保護受給者が地域の課題解決のためにNPOをつうじて活動し、社会とのつながりを持ち、地域の役に立つことが生きがいにもつながってくる。

生活保護受給者を含む2040万人の貧困と言われる人々を、国がどのように支援していくのか。日本国憲法第25条「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」、第27条「すべて国民は、勤労の権利を有し、義務を負ふ」を重く受け止め国は対応すべきであり、貧困対策は待たなしである。

2011.12.21

※相対的貧困率

すべての世帯の所得データを基に、一人あたりの可処分所得の上位からも下位からも50%になる中央値の半分を「貧困線」と定め、それより低い層に入る割合をいう。